4 違う景色に見える旅

～大人の修学旅行～

以倉 敬之
IKURA Takayuki
まいまい京都代表

大人になった今こそ、修学旅行をやり直したい。中高生のときにはわからなかった面白さが、年を重ねた今ならわかる。有名な観光地を再び訪れるときも、あるいは見慣れた近所を散歩するときも、コツさえ知れば「大人の修学旅行」に早変わりする。旅やまち歩きをディープに楽しむ秘訣とは？

大人の修学旅行はタモリさんにならえ？！ 定番観光地のディープな歩き方

「修学旅行」といえば、有名な観光地を見学する－金閣寺に清水寺、大阪城など、歴史的に重要なスポットを訪れて、歴史の勉強をする－そんなイメージをお持ちの方が多いかもしれません。でももし、本誌読者のみなさんを関西圏で「大人の修学旅行」にご案内するとしたら、私たちならたとえばこんなコースをご提案します。

《コース1》

【鴨川】京の「名橋」大解剖！　橋のスペシャリストと、鴨川をドボクで解き明かせ

～秀吉の“凱旋橋”三条大橋、四条大橋ルネサンスの痕跡、国道1号五条大橋まで～

《コース2》

【琵琶湖疏水】土木技術者と「疏水」大解剖！明治の巨大プロジェクトにグッとくる

～土木構造物の精華！　御所水道ポンプ室、大日山貯水池、水路閣…美は細部に宿る～

《コース3》

【阿波座】橋梁エンジニアと大阪ドボクツーリズム！巨大構造物の造形美に萌えろ

～圧倒的な“西の横綱”、ジャンクション3連発！ビルと立体交差がドッキング～

写真1　ドボク愛が止まらない工学博士

写真2　れんが博士と琵琶湖疏水をマニアック探検

京都なら、まずは橋でしょう。鴨川に架かる三条大橋は、秀吉による日本初の石柱橋。ここには今も桃山時代の石柱が残っていますから、見逃すわけにはいきません。琵琶湖から京都に水を引いた琵琶湖疏水を見てみれば、そこには明治京都の起死回生をかけた大プロジェクトの土木構造物があります。京都から一歩出て大阪に向かえば、ここは水運の街。河川関連の巨大構造物が目白押しです。大人の修学旅行として、土木構造物の造形美を愛でるというこんなマニアックなツアーはいかがですか。名付けて、“ドボクツーリズム”。

こんなツアーに人が集まるのだろうかと訝（いぶか）しく思われるかもしれませんね。でも、意外や意外、これが結構人気なんです。今日だって、京都のどこか、貯水池や廃線跡、道路標識やマンホールを見ながら興奮している大人たちが歩いているのです。

ゆっくり歩くツアー

私たちは「まいまいツアー」というまち歩き事業を運営しています。「京都でまち歩き」というと、和服でも着て石畳の祇園を歩くのかと思われる方もいるかもしれませんが、そうではありません。冒頭にご案内したように、土木構造物に興奮するツアーもあれば、廃線跡を追うツアーも、街の高低差を歩きたおすツアーもあります。もちろん、ドボクばかりではありません。まいまい京都では、工学博士から僧侶、御用庭師、そして怪談史研究家からパン好きまで、とにかく幅広いジャンルのスペシャリストがそれぞれの視点で京都を案内するツアーを展開しています。さまざまな内容がありますが、ツアーに共通するのは「ガイドさんの偏愛」に触れるということ。参加すれば、「この街にこんな楽しみ方があったのか！」と驚くことばかりです。

写真3　1ツアーは20人前後で、2～3時間かけてまちを楽しむ

まいまいのまち歩きツアーは、時間としては2～3時間。ちょっとしたお散歩という規模感です。歩く距離も長くはなく、たいてい2～3km。平均的な大人の歩く速度は、だいたい時速3kmですから、かなりゆっくりしたペースです。なぜ小さなエリアをゆっくり歩くのか。ここに「まいまいツアー」の秘密があります。ツアーでは、普段なら素通りしてしまいそうな小さな痕跡にも足を止めて、その来歴や意味を探っていくのです。「まいまいのツアーはよく立ち止まる」と参加者さんが驚くほど。それもそのはず、「まいまい京都」という団体名の「まいまい」とは京言葉で「うろうろする」「道草を食う」という意味なのです。小学校の帰り道なんか、道草こそが楽しかったですよね。大人になっても道草を楽しもう。

写真4　国土交通省と共同企画の“社会見学”は大人になった今こそ面白い

写真5　祇園祭は準備期間にじっくり見て回るのが通

写真6　能舞台に上がってドキドキお能体験

写真7　痕跡探しや廃線跡をたどるツアーは鉄板人気

そんな意味を込めて名付けました。

秘密、謎を探る

街にひそむ小さな痕跡に足を止めて、その秘密を探る。そう聞いて、もしかしたら、あるテレビ番組を思い出した方もおられるかもしれません。そう、NHKの人気番組「ブラタモリ」。タモリさんが全国各地をブラブラと歩きながら、その土地の来歴を、歴史や地理、地学的な観点から掘り下げる番組です。お好きな方も多いのではないでしょうか。まいまい京都は「ブラタモリ」に企画から全面協力し、十人以上のガイドさんが出演しています。京都が舞台になった清水編・御所編・鴨川編では、私もタモリさんを案内しました。あの番組が多くの人に支持されているのは、それまで知らなかった「その土地の楽しみ方」を見せてくれるからだと思います。

まいまい京都も、じつはブラタモリと同じなんです。「まいまいツアー」は、ユニークな視点をもったガイドさんの見方を楽しむもの。たとえば、みなさんがガイドさんとともに何の変哲もない道を歩いているとしましょう。ガイドさんはなぜか急に立ち止まります。そして、「この道、見てください。なんかここだけカーブしていますね」と話しだす。そう言われてみれば、たしかに道が曲がっている……。そこへ、ガイドさんが問いかけてくるんです。「なんでやと思います？」

まいまいのツアーでは、このように、何気なく歩いていた道に突然、謎が出現します。アタマのなかを「？」でいっぱいにしながら、あたりを見てみる。すると、民家と道路のあいだに妙なスペースがあることに気づく。そのことをガイドさんに伝えてみると、にっこり微笑みます。

「そうなんです、ちょっと不自然ですよね」そして、教えてくれるのです。「この道は、かつて路面電車が走っていたんです。ここは線路の跡なんですよ」「線路はもともと川だったところに引かれていたから、ゆるやかにカーブしているんですね。線路と距離をとるように住宅をおいたから、この一帯には空間が残っているわけです」

さらにガイドさんは畳みかけます。「ではなぜ、川の上に線路が引かれたんでしょう？」ガイドさんと歩いていると、見知ったまちであっても「どうして道が曲がっているんだろう？」「なんでここに空き地が？」などつぎつぎと疑問が湧いてくる。そうしてその「？」が、だんだんと「！」と変わっていく。ブラタモリに思わず見入ってしまうのと同じ構造です。

写真8　宇治茶の産地で茶畑を訪ねるツアーも

写真9　見方が変われば、まちはもっと面白い

写真10　庭師ガイドと巡れば、池泉回遊式庭園の楽しみ方も倍増

写真11　大文字山の頂上で、みんなで「大」の字

こうやってまちの謎を解いていると、まちがもつ普遍的な“原理”を読み解けるようになってきます。別のまちを歩いたときにも、道幅や道の勾配などちょっとした違和感を察知して、その来歴を感じられるようになる。いわば「まちを読む」というリテラシーが身につきます。

まちを読むための切り口はさまざまです。道の勾配や幅を観察するもよし、冒頭に取り上げたように土木建造物に絞るもよし。木の生え方など植生に注目するとか、建物のタイルを愛でるとか、さまざまに見方を切り替えることで、これまで知っている街でも異なる横顔が見えてきます。見える世界がガラッと変わるのです。

修学旅行先が違って見える

こういうマニアックな見方を知れば、かつて修学旅行で訪れた場所だって見え方が大きく変わります。たとえば、京都観光の定番中の定番、金閣寺。ここを訪れるとしたって、いくつもの楽しみ方があります。私たちなら、たとえばこんなツアー。

《コース4》

【金閣寺】“日本国王”の宮殿、金閣寺の謎を解き明かせ！

～上下二段の王者の館、足利義満の北山新都心構想～

《コース5》

【まいまいゼミ】一から学ぶ日本庭園、美と思想が凝縮された深淵の世界に迫る

～大覚寺・金閣寺・龍安寺・妙心寺…　庭師と極上の名庭を見比べながら～

《コース6》

【左大文字】普段は入山禁止の金閣寺大北山へ！火床から絶景大パノラマ

～松明行列のお町内、貴重な消し炭を拝見、左大文字を守る法音寺～

どれも実際に開催しているツアーです。金閣寺を「日本国王の宮殿」と見て、足利義満の野望を読み解いてみる。あるいは、名庭をもつ寺として鑑賞してみる。はたまた、京都の夏の風物詩「五山の送り火」の火床を宿す山として、分け入ってみる。「金閣寺」と一言でいっても、あの黄金に輝く舎利殿だけではないのです。そこには、なぜ足利義満があの場所に寺を建てたのかという歴史の謎もあれば、金閣寺ができてからの700年間、寺とともに生きてきた京の人々の営みも根付いているのです。

いかがでしょうか。定番の観光地であっても、はじめての土地であっても、多様な見方さえ知っていればさまざまな角度から楽しめる。大人になったいまこそ、自分なりの興味をニッチに掘り下げてみましょう。それが「大人の修学旅行」なのです。